

2021年活動スローガン「^{はばた}輝け 翔け 世界の子ども達 未来に向かって」

報 告 2020年10月～12月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

- ・占いの館「千里眼」様よりカバシア郡の3つの学校へトイレを3基
- ・会員有志の方よりカバシア郡の学校にトイレを2基

●その他の寄付

- ・会員有志の方よりエンゼルホームの食堂・自習室の壁の補修・塗装費
- ・会員有志の方よりエンゼルホーム内のトイレ・シャワールームの補修工事費
- ・吉村嘉三郎様よりエンゼルホームの塀の補修工事費
- ・幸進学院様よりカバシア郡の学生にマスクとボールペンを188セット
- ・木下明砂様よりエンゼルホームにパソコン1台、自転車2台、寝具一式
- ・甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様よりカバシア郡に6つの学校に机とイス各10セット
- ・同会よりエンゼルホーム内の図書館に図書200冊
- ・三津出義博様よりエンゼルホームの子ども達にサッカーユニフォーム

〈シエラレオネ〉

- ・12月に宣教クララ修道会を通じてシエラレオネの子ども達への支援として10万円を寄付

〈お知らせ〉

- 2020年11月20日(金)、臨時会員総会を行いました。認定NPO取得申請に伴い平成30年及び31年の決算書類変更及び定款変更について審議され、全会一致で可決されました。現在(2021年1月)兵庫県に申請し、書面審査中となっております。

●会員総会 3月5日(金) 13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますので、ご出席下さいませようお願いします。

●アイキャン

毎年エンゼルホーム内の診療所で行われています佐賀県の医療NPO法人「POSA」の医師らによる白内障患者の手術支援「アイキャン」は昨年中止となりました。それに関わる費用76万円を寄付していただきました。

編集後記

2020年はあっという間に過ぎ去っていきました。世界中が混乱し、また意見が2つに分かれる選挙もありました。この様な時ほど、相手を尊重し、気遣い、協力していく必要があるのではないのでしょうか。私達は、ボランティア活動を通じて相手を思いやる心を育てていきたいと思っています。私も自身を振り返り、今年は身近な人への思いやりの心を忘れないよう頑張ります。

2021年 行事予定

1月現在

4月	7日(水)	春のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
6月	6日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
10月	20日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
12月	19日(日)	チャリティコンサート	アイフォニックホール	伊丹市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

イベント情報

4/7(水)

春のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター(伊丹市)
時間: 10:00～14:00



〈国内〉

- ・あおぞら食堂「エンゼル」に佐賀県のNPO法人「POSA」の井上望様より食材の寄付
- ・あおぞら食堂「エンゼル」に国際ソロプチミスト伊丹様より3万円寄付

〈国内活動〉

- ・10月21日にボランティアセンターで開催された秋のチャリティバザーは盛況のうちに終わることが出来ました。バザーの品物の提供などご協力ありがとうございました。
- ・12月に大阪のJR天王寺駅前で街頭募金を行いました。ご協力いただきありがとうございました。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口 30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよりしくお願いします。

会員数: 一般会員 686名

DCEF会員 658名

(1月1日現在)

ANGEL NEWS

通巻194号
2021.01

カバシアへ向かう船上にて(1996年スタディツアー)

新年おめでとうございます。いつも当協会にご支援ご協力を下さりましてありがとうございます。

さて、今年はバングラデシュがパキスタンから独立して50年になります。今から38年前にバングラデシュを初めて訪れた前代表の川村百合子は、戦後の日本と同じ光景を目にしたと言っていました。そして、温厚で真面目な現地の人達に触れて、この国に教育が行き届いたらきっとこの国は発展すると確信を持ったそうです。物やお金を送るよりも子どもの教育にと日本中の人達に呼びかけてきました。

今、行くたびに変わっていくバングラデシュの様子に確かな発展を感じます。30年前、私が初めてバングラデシュに行った時驚いたのは、ほとんど女性の姿は見え、店員も男性、道行く人も男性ばかりでした。女性の姿が見えないのは何故かと現地の人に尋ねると、宗教的なことだけでなく女性が外で働く仕事もないし、字を読める人も少なくお金の計算も出来ないのでもうしても男性が買い物することになっていると言われました。

あれから30年たった今、ダッカには大きなビルが建ちスーパーマーケットも出来て女性達が買い物かごを持って自由に買い物をしています。道路には縫製工場に行く女性達でしょうか、色鮮やかなサロアカミスを着て賑やかに歩いています。私達がずっと続けてきた学生への奨学金の供与や女性の為の識字教室がこの国の発展に役に立っているのではないかと思います。バングラデシュの人口の55パーセントが16歳から20歳、それに比べて日本では人口の1/4が65歳以上です。バングラデシュに行くと元気をもらうのは若い人が多いからなのでしょう。まだまだ可能性のある国です。昨年はコロナウイルスによって世界中の国が打撃を受けています。バングラデシュも大きな打撃を受けていますが、若い人達が知恵を出し合ってこれからも発展へ導いていくことを願い、私達も変わらず支援していきたいと思っています。今年もよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

バングラデシュ支援35年

バングラデシュ支援35周年おめでとうございます。私が国際エンゼル協会を知ったのは新聞の「あなたに愛の手を」のコーナーでした。私にも何かできることはないかと思い、教育里親会員の申し込みをしたのが2002年。以来会費を送り続けていたものの、他には何もするに至らず10年が過ぎました。

2013年1月ようやく念願のスタディツアーに参加することができました。YURIKOエンゼルスクールの運動会で子ども達と走り回ったり、識字教室の卒業式では若いお母さん達の立派な姿に感動したり、スリジョニの子ども達とも遊んだりして、とても貴重な経験をさせていただきました。スタッフの皆様にも大変お世話になり感謝しています。これからも応援しています。

本多 美香

各地のバザーのお手伝いもお客様との会話が弾みますが、生粋の神戸っ子の私は特に地元のバザーが楽しみで、70年来の幼友達、60年来のOL時代の友、かつてのPTA仲間、ブティックの店長さん、ご近所の方、はたまた主人の老人会の方等々が応援に駆けつけて下さいます。「いつも楽しませてもらってます」「頑張ってください」と声を掛けて下さいます。

ボランティア仲間と共に、人との出会いをボランティアの楽しみに38年間続けさせていただいたことに感謝です。28年前、初めてバングラデシュのダッカ空港に着いた時、たくさんの子ども達が「ボクシシ!ボクシシ!」(お金ちょうだい!)と言って群がって来た光景を忘れることができません。エンゼルホームに着くと笑顔の子ども達の出迎えにはほっとしました。バングラデシュの子ども達の幸せを祈っています。



ひさこ 左 長子

太陽の光が眩しく、緑の美しいバングラデシュが私は大好きです。水害が多く、人口密度が世界一だそうですが、ベンガル人は温厚で真面目な「古き良き日本人」のようです。

今から30年前に初めてバングラデシュのツアーに参加しました。その当時は川で洗濯する傍で米や野菜を洗い、トイレもしているということを知りショックを受けました。また、農村の家庭ではバケツ1杯のお湯で髪の毛から足の先まで洗うのだと知り、日本での生活の有難さを痛感させられました。

私はボランティアで教育里親(DCEF)のお手伝いをさせていただいています。奨学生だった学生が卒業して学校の先生、政府の職員、医者などの仕事について活躍しています。人を育てることに素晴らしさを実感することができ、とても嬉しく思います。

井上 裕子

2020年はバングラデシュ支援35周年の年でした。しかし新型コロナウイルスはバングラデシュでも猛威を振るい、現地では3月26日よりロックダウンが始まり、いまままだ段階的に外出規制がかかっています。2020年12月現在、YURIKOエンゼルスクールは再開できていません。しかしその他のプロジェクトは大きな制限の中、少しずつ再開しています。私達の支援を必要としている人がいる限り、この支援の輪は途切れることはありません。思い返せばこれまでも様々な事がありました。ここにボランティアの皆さんのバングラデシュ支援35周年への想いを紹介したいと思います。

バングラデシュに関わって、もう35年になるのですね。初めてのエンゼルホームで目覚めた朝の緑の風、小鳥のさえずり、子供たちの笑顔が今もはっきり目に浮かびます。

スタッフとボランティアと一緒にテーブルに地図を広げ「ここに図書室を」「ここに食堂を」などと夜遅くまで話し合ったこと、里親制度を作るには「一対一」では問題がありそうだから「全体対全体」でできないかしらと当時の事務局長さんに持ち掛けてできたのがDCEF、あれは遠方へバザー用品をいただきに行く車中だったなあ、またスタッフの一人が女性の識字教育にとっても熱心で識字教室や女性の職業訓練所ができたのだったなあ、などと次々に思い出されます。エンゼル協会に関わったことで一主婦がいろいろ貴重な経験をし、視野を広げ育てていただいたことに感謝いっぱいです。



上田 朋子

初めてバングラデシュに着いた時、移動中の車が停車する度に物乞いのため窓を叩く子ども達や女性達の姿にビックリ!だからこそ支援が必要だと感じて、エンゼルでプロジェクトチームが結成されました。外国から見て、感じて、支援するよりも自国のことは自国の人達に考えてもらった方が良くと考えて、1.子供達の教育 2.女性の自立という支援の2本柱の下でボランティア活動が始まりました。その後たくさんの人達に支えられ大きな支援の輪が広がって職業訓練所、クリニック等の施設も完成し、子ども達の人数も随分増えていきました。

日本でボランティアをされる会員の方々、そして活動の支援をして下さる皆様方のおかげでバングラデシュでの支援活動が35周年を迎えられたことは本当に感謝に堪えません。その活動の中で、私には苦い思い出があります。文化の違いにも違和感を覚えたことも事実でした。その差をどこもなく優越感で眺めていた様に思います。しかしこうした活動を通して、人は「愛」の人になるようにいろんな環境が自分のために準備されているのだと感じました。これからも心の成長を目指していきたいと思っています。

伊東 律子

国際エンゼル協会35周年おめでとうございます。今年1月、世界中が新型コロナウイルス感染に襲われる直前でしたが、ラッキーにも2度目のバングラデシュ行きを果たすことが出来ました。子ども達と再会を喜び合い、音楽を通してさらにつながりを深められた事を本当に嬉しく思います。思えば、私のバングラデシュ行きは毎回私自身大きな岐路に立たされたり、思い悩んだり、大切な節目にその機会を与えていただいたように思います。バングラデシュの子ども達と触れ合う中で、自分を見つめ直し、原点に立ち返り、どう生きるべきかを考え軌道修正できる、そしてまた自分を成長させる素晴らしいチャンスにいただけた事に、心から感謝申し上げます。コロナが一日も早く終息し、また子ども達の元気な顔に再開できる日が来ることを願っています。そしてまた音楽で繋がりをしましょう!

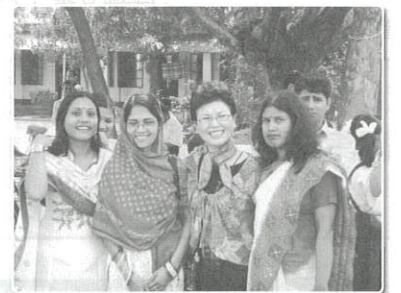
最後になりましたが、国際エンゼル協会がさらに支援の輪を広げ、愛ある活動で未来へと発展されますことを心からお祈り申し上げ、お祝いのメッセージにさせていただきます。

熊原 幹恵

30年前息子が大学入学前に訪問した時のことを先日のように思い出します。「エンゼルホームの子ども達は日本人の多くの子ども達が失ってしまった、あるいは忘れてしまった目の輝き、優しさ、素直さにあふれていてとても感動した」と興奮して話し、お母さんも早く行って来たらと勧められてから数年後に訪問することができました。百聞は一見にしかずと申しますが、目にする事、物、全てが驚きの連続でした。小さい子どもが炎天下でレンガ割りしている光景や、15歳の少女がエンゼルで養鶏の技術を学び、家族全員を養っているけなげな姿は忘れられません。

国際エンゼル協会の活動の素晴らしさを目の当たりにしたことで、自分の力は僅かでも出来る限りお役に立ちたいと思っています。

朝田 美美



私のバングラデシュ訪問の一番の思い出は前代表川村百合子さんが亡くなられた翌年2005年1月に「YURIKOエンゼルスクール」の開校式に参加したことです。エンゼルホームの敷地の中の既存の建物を使用しての開校でした。男子108人女子92人の中に、地域の子供達に混ざってエンゼルホームの子ども達がとても嬉しそうに誇らしげに教室に入っていたことが忘れられません。この学校で育った子ども達は将来きっとこの国のお役に立ち、幸せになってくれると確信しました。「よし、頑張っ川村さんの精神を受け継いで教育のことをきちんと考えて、子ども達にいいチャンスを与えることのできる学校を応援していこう」と思いました。その時の気持ちを忘れないでいこうと思います。

大下 智代

その他多くの皆様よりメッセージをお寄せ頂きました。頂きましたメッセージはホームページなどに掲載させていただきます。ご協力ありがとうございました。